

アドレス <http://www.kioicho-rc.jp>

東京紀尾井町ロータリークラブ

KIOICHO WEEKLY Vol.29-20 No.1284 2020.12.3

国際ロータリー会長 HOLGER KNAACK
ホルガー クナーク

Rotary Opens Opportunities

テーマ ロータリーは機会の扉を開く

* 例会日 木曜日 12:30

* 事務所 102-0083 東京都千代田区麹町3-5

* 例会場 ホテル ニュー オータニ

得水ビル2階202号

* 創立 1992年9月17日(平成4年)

電話 東京03(3265)8597番

* 会長 大竹章裕 幹事 坂田生子

FAX 東京03(3262)5279番

* 会報雑誌委員会 委員長/森田建二 副委員長/佐藤香織・吉岡幸志 委員/今井千晶、熊川貴昭、馬淵知子、山口妙子

11月26日 第19回例会(通算1283回) 会場:麗の間

1. 出席者 会員 47名
 ゲスト 1名(卓話者 田中宝紀様)
 ビジター 9名 計57名

司会 吉野次郎会員

2. 開会の辞・点鐘 大竹章裕会長

3. ビジター紹介 森田建二会員

4. 会長挨拶 大竹章裕会長

本日は東京練馬中央ロータリークラブから会長・尾島様はじめ5名もお越し頂きました。ありがとうございます。坂田幹事と三村副会長がお誘いくださったと聞いております。どうぞお楽しみください。

さて、先日書道教室で素敵な言葉に出会いました。

「四時佳興」しじかきょうと読みます。

意味は春夏秋冬、いずれの時もそれぞれに素敵な魅力を備えて

いる。というものです。これを人生に置き換えれば、青年には青年、壮年には壮年、老年には老年のそれぞれ魅力があり、いずれも今が素敵なきなのだということでしょう。あるいは春夏秋冬いずれに趣があるのと同じように、人それぞれ誰しもが優れた点を持っているということになりましょう。

この言葉に触れ、すぐに東京紀尾井町ロータリークラブをおもいだしました。紀尾井町では現在新たに設置した定款細則委員会も加え15もの委員会が活動しています。さらには各委員会がそれぞれに何度も打ち合わせを重ね、活発に活動頂いています。これは皆様それぞれが個々の優れた点を持ち寄ってこの一つの間を作っているということに他ならないと思うのです。

今日の卓話は日本に定住する外国の方の話題です。外国人を排斥して追い出したら、次は日本人同士で差別を始めます。更にその次は仲間割れに進むでしょう。きりがありません。

学生の時ホームステイしたフランスアルザスで、その家のアドルフというおじいさんは「私の名前はアドルフだ、アドルフヒットラー!」と喋ってナチス式の敬礼をしました。東洋から来た言葉も通じない若者に精一杯心づくしをしてくれたと思うと、胸が熱くなりました。

多様性を認めることを最近ダイバーシティというそうですが、耳慣れぬ外来語を使わずとも私たちは四時佳興の趣で互いを尊重してしあわせな場を作って参りたいと思います。

では紀尾井町からハッピーを発信しましょう。以上で会長挨拶を終わります。



11月お誕生日の皆様

12/3 第20例会

麗の間

12/10 第21回例会予告

麗の間

「クラブ総会」

「マジックは愛を生む世界の言葉」

「和装の魅力・・・冬偏」

マジシャン 菅原英基様

中瀬賀暁・大竹章裕・江藤昭子会員他

・委嘱状授与 米山記念奨学生選考面接官 前原秀一会員

・11月誕生祝い品贈呈

小島清治君(6日) 小林康和君(8日) 宮下 真君(17日) 守重知量君(21日)

黒田善孝君(23日) 松島 寛君(24日) 江副 碧君(28日) 飯塚保人君(30日) 計8名

5. 幹事報告 坂田生子幹事

①週報、卓話資料、配布致します。

②次週(12/3)はクラブ総会になります。大勢の皆様のご出席をお願い致します。

③次週(12/3)第6回定例理事会を開催致します。役員・理事の方はご出席をお願い致します。

6. 委員会報告

①次年度役員(案)の件 茨田浩之次年度幹事

皆様こんにちは。皆様のお手元に次年度の役員・理事(案)を配布致しました。本日より1週間の告示を致します。ご異議のある方は、私又は事務局までお申し出下さい。又、役員欄の谷井 玲さんの箇所が会長エレクトと表記してありますが、これは今までの副会長と表記されていたものです事、補足致します。

②国際大会開催のご案内 井波喬之国際奉仕委員長

来年の国際大会は、6月12日～16日開催される予定です。ガバナーナイトは13日に開催予定です。コロナの関係もございまして、どのような形で開催されるかはまだ未定で、1月末のRIの理事会で決定されるそうです。バーチャルの選択肢もあるとの事です。早期登録割引が延長されまして、2021年2月15日までとなっておりますので、皆様奮ってのご参加よろしくをお願い致します。因みに現在、第2580地区の登録者数は101名で目標の14%となっております。運営方法が固まり次第、又、ご案内させていただきます。どうぞよろしくをお願い致します。

③SAA委員会 中島 聡委員長

皆様ご存じのようにコロナの感染状況がまた右肩上がりになってきている中で、SAA委員会の方からその対策として、会員並びにSAA委員の健康安全を守るためにニコニコの寄付並びにビジター様の支払いをPayPay又は、クレジットカードでの決済をお願いしたいと思います。因みにクレジットカードは日本国内の殆どのカードが使用できます。スイカ等の電子決済も可能です。非接触を進めていければ皆様の安全に繋がるのではないかと思います。又、先週よりニコニコの集計をエクセルでやっております。正確な数字、省略可により、受付の委員のウェルカムの笑顔が引き出せるのではないかなという目的で変更を行いました。今後もZOOMでのリモート例会も含めて、皆様の安全を守った例会運営を執り行って行きたいと思っておりますので、どうぞよろしくをお願い致します。

7. ニコニコボックス発表 大島 幹会員

8. 卓話 紹介者 井波喬之国際奉仕委員長

本日の田中宝紀様には海外にルーツを持つ子供の現状と課題についてお話頂くのですが、ご依頼した経緯について簡単にお話をさせていただきます。

今期の国際奉仕の活動はコロナの影響もございまして当初から中々動きが取れず、どのような形で必要としている方に援助を届けるか模索しておりました。通常、国際奉仕と言えば、海外に赴いて支援をしていくものなのですが、このコロナ禍では移動も出来ず、現地もまたコロナの対応で混乱している状態ですので、全く手も足も出ないなと悩んでおりました。そんな時、大竹会長の今期のテーマで有ります**照顧脚下**という方針をヒントに何とか日本国内で出来る国際奉仕というコンセプトで何か無いかということで、色々調べましたところ、田中様が運営されておりますYSCグローバルスクールに辿り着きました。多文化共生という視点では日本はまだまだ遅れておまして、アジアの中でも少し見劣りするかなと個人的には感じております。コロナで大変な環境ではございますが、国際奉仕として、足元である国内に目を向ける機会を得られた事に非常に感謝しております。では田中宝紀様どうぞよろしくをお願い致します。

「外国にルーツを持つ在日の子供達」

NPO 法人「青少年自立援助センター」
定住外国人事業部・田中宝紀氏

皆様こんにちは。本日は貴重な機会を頂き有難うございます。私は先ほどご紹介頂きましたように日本国内で海外にルーツを持つ子供達の教育支援事業YSCグローバルスクールという学びの場を運営しています。主に外国籍の子供達だけではなく、日本国籍を持つ、いわゆるハーフ、ダブル、ミックスルーツと呼ばれる様な日本にもルーツを持っているお子さんですとか、或いは難民として逃れて来て、何らかの理由で出生時に国籍を持つことが出来なかった難民2世のお子さんですとか、国籍に関わらずお父さん、お母さんの両方又は、そのどちらか一方が外国出身者の子供に日本語教育ですとか、学習支援機会を提供している活動を普段、福生市と足立区で行っています。特に福生市は横田基地が有る関係で外国人人口比率が市町村の中ではかなり高い自治体になっておまして、

足立区は東京都内で3番目に外国人の方が多いというような地域です。

私が海外にルーツを持つ子供支援に携わり始めたのは2010年からです。NPO法人「青少年自立援助センター」は、元々は引きこもりやニートといった日本人の若年無業者の方の自立就労支援を柱として長い間活動してきた法人だったのですが、拠点が福生市に有ると言うこと、それから今後、海外にルーツを持つ方々が増加していく中で、必ず子供の教育というのが課題になってくるであろうということで、2010年度に定住外国人支援事業部というものを立ち上げまして、私がその責任者に就任しております。

なぜ、私がその責任者に就任する事になったのかと言うと、実は私、16歳の時に一人でフィリピンのハイスクールに留学していた事が有りました。マニラから車で3時間位の本当に田舎の州立のスクールに留学したのですが、そこにいた時に全くフィリピン語も英語も一切分からない状態だったのですね。にも関わらず周辺の方々が私を何とかもてなそう、何とか寂しく無いように過ごして貰おうと言うことで、本当に地域の一員として仲間に加えて下さったのです。先ほど、会長のお話の中でドイツで会ったおじいさんのお話有りましたが、私も実はフィリピンの山の中で、日本兵の真似をしたおじいさんにお会いしました。まだ本当に子どもだったので、あまりの出来事に驚いてしまったのですが、おじいさんは自分が知る限りの日本語で一生懸命話して下さいました。それが何とか私を寂しくないようにしようという気づかいだろうなと幼いながら分かって驚いたのもそうなのですが、嬉しさも感じました。



そして私が日本に帰って来た時に福生市に住んでいたのですが、ふと周囲を見渡すと外国人の方が日本語も出来ず孤立した状態で暮らしているという現状が目に入って来ました。私は元々、国際支援NGOの職員になろうと思って大学で学んで来たのですが「国内にこんな課題が有るのか」と。たまたまその時期にフィリピン人の中学2年生の女の子に出会いました。その女の子は、学校で誰も日本語を教えてくれない、友達も出来ない、先生ともコミュニケーションが出来ない。家に帰ったら帰ったらで、義理の叔父にあたる日本人男性にいびられるというような日々を送っている事が分かりました。彼女に手を伸ばせる人が誰もいない状況を目の当たりにして、やはり、海外で困っている子供達を助ける事も重要だけど、フィリピン国内で私がして貰った様に、日本国内でも何とか子供達が生き生きと過ごせるように皆で子供達を支えていけるような活動がしたいと思い、今の活動に参加をしています。

普段は、子供達の日本語教育、学習支援、高校進学支援、不就学状態のお子さんや、不登校のお子さん何かも多いので、昼間はフリースクールの様なサポート何かも行っています。加えて元々、自立就労支援事業が柱の団体ですので、他の法人内の事業部と連携して、海外にルーツを持つ若者や、外国人保護者の方の自立就労支援何かも行っています。年間約120名、40か国以上にルーツを持つ子供や若者の受け入れを行って来まして、これまでに1000人以上の家庭の子供達に出会って来ました。色々な子供が居て、色々なニーズが有る中で、何にも支援が無いという状況が続いていたので、とにかくアクセスが有ったら、ドアを叩く子供がいたら必ず受け入れようということを念頭に事業を実施していたところ、ものすごくカリキュラムがびしっと組まれた日本語学校兼、高校進学予備校兼、フリースクール兼、塾みたいな場所が出来上がりました。朝9時から夜7時まで入れ替わり立ち代わり1日70名位の子供達が通所又は、オンラインで学習をしに来ています。普段、コロナの前は、小さい学校というようなイメージで、まだ学校に行っていないとか、学校に行けなくなっちゃたと言う子供達も少なくないので、運動会をやったりとか、文化祭をやったりとか、日本風のキャラ弁を作るという家庭科の調理実習みたいな事をやったりとか、企業さんに訪問して日本での働き方を学んだりとか、色々な社会体験活動も含めて、子供達を包括的に支えて行くという事を目指しています。

私がこれまで出会って来た子供達の多くが、3つの壁に直面し、日本の社会の中で困難を抱えています。皆さんは海外ルーツの子供、外国人の子供と聞くとすぐに「日本語が分からなくて大変そうだ」と思いついて下さる方と思いますが、日本語に加えて、日本語を覚える代わりに自分の国の母国語が分からなくなってしまうという課題も抱えています。加えて、制度面での壁ですね。在留資格の壁ですとか、外国籍のお子さんは義務教育の対象外で有るがゆえに教育機会からこぼれてしまいがちなお子さんですとか、或いは進学、就職時に壁にぶつかるようなお子さんなんかもあります。加えて、どんなに子供達が日本語を覚えて日本社会に馴染んで一生懸命頑張ってる暮らしでも、どうしても大多数の子供達が虐めや差別という現実と直面します。恐らく心の壁と呼ぶべき様な物。こうした状況が有ると言うことをこの後、少し詳しくご説明させて頂きたいと思えます。

海外のルーツを持つ子供と言うと、国籍問わず日本国籍を持つお子さんも入ってくる事から中々その人数と言うのを正確に把握する事が出来ないのですが、その規模感を示す一つの公的な数少ないデータとして、文部科学省が2年に一度調査をして公表をしている日本語指導が必要な児童、生徒に関するデータというのが有ります。これは日本国内の公立の小学校、中学校、高校、中等教育学校及び特別支援学校に在籍をしている日本国籍、外国籍の日本語が分からない子供の数です。これは年々増えて来まして、この10年で約1.6倍位増加をしています。最新のデータは2018年度、約5万1千人の子供達が日本の学校に通っているのも関わらず日本語が出来ずに困っているという状況が明らかになっています。

日本語が分からなくて困っているというのは、どんな日々なのか、子供達がどんな状況に陥っているのか、というのを皆さんに分かりやすく体験して頂きたいと思って、一つクイズを用意してきましたので、お付き合い下さい。(略)

フィリピンのタガログ語で今、簡単な算数の問題を出させて頂きました。皆さん、ほぼ 100%の方がタガログ語が分からないと思いますので、回答が有りませんでしたね。言葉が違うってこういう事なのです。日本語が分からない子供は学校で毎日、こういう経験をしているのです。本当は簡単な問題なのにちっとも解けないということが日々続いています。そうした状況の中でどうしても嫌になってしまい、学校に足を運ぶのが辛くなってしまいう子供達も少なくありません。

毎日新聞が、日本語指導が必要な子供達の何%が学校で支援を受けられているか、ということのを都道府県別に記事にしてくれたものが有ります。実は東京都内では、日本語指導が必要な子供の内、28%が支援を受けていません。学校で何の支援も受けていない。只、算数の問題のように分からない授業に延々と座っているだけの子供達が全国の学校に 1 万 1 千人居ます。無支援状態です。学校で誰も何も教えてくれない。その事が実はその瞬間だけでなく、子供達の将来にわたって、キャリアにまで影響を及ぼすほど長期的な問題の要因となります。日本語が分からない。友達が出来ない。学校に行きたくない、ドロップアウトをする。日本語が分からない。勉強についていけない。進路を選ぶ時期に高校の入試に失敗してしまう。高校進学率も日本人のお子さんが 100%に近い中、外国籍のお子さんは、約 7 割に留まるという報告が有ります。かなり低いですね。そうした大きな影響を及ぼす日本語の壁というのが、判然として立ちはだかっている状況で、何とか国も支援の受け入れ態勢を学校の中で進めて行こうと頑張っていますが、今は主に私たちのような民間団体ですとか、或いは多くのボランティアの方が手弁当で日本語学習支援教室を開いて支えている様な状況です。

続いて制度の壁について少しお伝えしたいと思います。文部科学省が今年の 9 月に調査結果を公表したのですが、全国の自治体に暮らしている義務教育年齢相当の外国籍のお子さんの中で、学校に行っているかどうか、教育を受けているかどうかを自治体が把握していない不就学の可能性が有る子供が 2 万人いることが分かりました。この 2 万人の内全員が本当に不就学なのかどうかと言うと、既に何も提出届を出さずに他の自治体に転居していたり、或いは、国に帰っていたり、或いはインターナショナルスクールに通っているよというようなお子さんもいるにはいると思うのですが、自治体はそうした義務教育年齢相当の子供が何をしているのか把握出来ていない。不就学で有ってもおかしくないという可能性の高い子供が 2 万人。これは大きな問題で有ると認識しておりまして、子供の権利条約を批准している日本にとってもやはり改善を必要とする課題だと言う風に感じています。

今、子供の権利条約のお話を少しさせて頂きましたが、文科省は外国籍のお子さんは義務教育の対象外で有るものの子供の権利条約等の観点から日本人と同様に希望が有る場合には日本の学校の中で受け入れをしますという措置をとっています。これ自体は特に問題は無いと思うのですが、今、実は学校現場等では、こういった事が起きています。

或るインドネシア人の男の子が 10 歳で来日しました。お父さんは先に来て日本の企業で働いています。お父さんが子供を学校に行かせたいと思って、自治体の窓口で足を運んだところ、教育委員会の方から「受け入れるのは学校だから学校に先ず確認しますね」と言う風に言われました。で、学校に問い合わせると学校から「日本語が全く出来ない状態でうちの学校には何も支援がないから、来られても放置になってしまっても可哀そう。只、ポツンと机に座っているような状況は本人にとっても辛いだろうからどこか別の所で日本語を勉強してから来てくれ」とこんな風に言われました。で、「学校の方は、日本語が出来るようになってから来てくださいと言っているの、ひとまず日本語を勉強出来る所を親御さん探して下さいね」ということで、教育委員会の方は就学の手続をせずに親子を帰してしまいました。これで不就学の発生ですよね。教育を受ける権利が認められて、きちっと希望を伝えても必ずしも教育機会が保証されるとは限らないという状況が起きています。これは受け入れ態勢の整備が不十分で有る事が要因となっているので、先ず学校の中で、こうしたお子さん達に対する支援体制がきちっと取られるよう対策を講じて行くことが急務だと言う風に思っています。加えて義務教育年齢を過ぎた後の高校進学については、やはり自己責任の範囲になってしまうのですよね。

先程、外国ルーツの子供が高校進学 7 割位とお伝えしましたが、じゃ、残り 3 割の子供は何をしているのか、誰も把握していないのです。就労してなければ、学校にも行ってない。となったら何をしているのだろう。15.16.17 歳の子供が何もせずにウロウロしている事を自治体も把握する手だてが無い。私達のような民間団体もそこまで調査がしきれない訳では無いので、こうした 3 割の進路未決定で日本の中学校を卒業せざるをえなかった子供達がどのような進路を辿っているかと言う事は全く分かりません。進学の制度も入試形態も都道府県によって異なりますので、外国籍の一定以内の滞日年数のお子さん達に対して「辞書の持ち込みが良いよ」とか「試験時間を 10 分延長するよ」というような配慮を講じている自治体もあれば、全く何もそういったものが無く日本人と同じ試験問題を「頑張っって解いてね」という所も有ります。高校進学は基本的には社会の前提になっておりますよね。そうした状況で有るにも関わらず 3 割の進路未決定者をそのまま放置しているという様な状況が今でも中々変わっていないということです。更に高校に進学しても言葉の壁等で、学習が難しいとドロップアウトしてしまう子供達も多くて中々上手く進路が決まらないなというような状況です。で、先ほどもご紹介したように子供達が頑張っって高校に入りました。頑張っって卒業しました。日本語もネイティブ並みになりましたと言っても必ずしもハッピーになれるかという、今の日本

の社会の中で直面をせざるおえない壁というのが有ります。誤解や偏見、差別という事で「そんなに大した事では無いのじゃない」と思う様な事もやはり当事者にとっては、傷つく事が有ります。例えばウェンツ瑛士さん等が自虐ネタでよく言っているのですが「ハーフなのに英語が話せない」と言う事をからかわれたり、白人のルーツを持っているのに関わらず、ハンサムでは無い、美人では無いということで「残念ハーフ」と言う風に呼ばれたりとか、何か有れば「国に帰れ」と言われてしまうと言う様な状況が大げさではなく、今でも続いています。日本語がネイティブ並みに話せるお子さんでも日本語をちょっと間違えた事で、学校の同級生に凄く馬鹿にされる。「そんな事も分からないのか、これだから外人は」と言われると言う様な事が有って、日本語頑張って話せるようになった子も学校では一言も話さないという様な子も少なく無いです。日本語に対する厳しい目線、寛容で無い態度というのが、外国ルーツの子供達を排除しています。更に2010年には、群馬県でフィリピンにルーツを持つお子さんが親がフィリピン人で有る事を理由に虐められ続け自ら命を絶ったということが有りました。これから先の日本社会の中で外国人の方、海外にルーツを持つ方が増加していくと言う事は間違い無い状況です。共に生きて行く社会を作り上げる上で外国人側がいくら頑張っても越えられないこの壁をやはり日本人側、ホスト社会が崩して行かなくてはならない。特に次世代を担う子供達が小さな小学生、中学生の頃から「色々な人達と一緒に暮らして行くのだよ。それが、当たり前なのだよ。多様な個性を認め合うのだよ」と言う事を感じながら理解しながら成長させていく機会を今、持って行かないと20年後、30年後、彼らが大人になった時、改めてこのフィリピンの女の子のようなケースが出てくるのでは無いかと思います。

私達の活動のミッションは「多様性が豊かさとなる未来へ」と言う言葉を掲げています。色々な違いが有る中でも今、やはりそれを乗り越えて生きて行く為の知恵と工夫、それから助け合い、と言う事を改めて考えていく事が今後、数十年後の日本社会の確固たる基盤作りになるのでは無いかと言う風に思っています、こうした色々な機会を頂いて、その大切さ、子供達がこれだけ頑張っているという事を多くの方に伝えられたらなと思って活動をしています。今は丁度、コロナの影響で特に外国人保護者の方の状況が厳しいです。先日の緊急事態宣言時には、実は外国人支援団体、ボランティアの活動が一斉に止まってしまったのです。もちろん集まることが出来ないのも、中々子供を支えると言う事が難しかったのですが、実はそのボランティア活動の担い手の大半が高齢者の方なので、そうすると感染リスクも高く、オンライン等のツールを活用する事も難しいと言う理由から中々オンラインでの対応が進みませんでした。その間、学校のサポートも無し、行政からの多言語の連絡も無しと言う様な状況の中で多くの外国人家庭が孤立し、不安を抱えました。今、尚、第3波に向けて家庭の経済状況の悪化が深刻化しています。食糧支援を必要とする家庭、派遣会社から当てがわれた住居に暮らしていたものの派遣切りにあってしまって、そこを追い出され、移転をしなくてはならない住居問題を抱える親子。帰りたいのに帰れない在留資格の更新がうまくいなくて、在留期限切れになってしまった子供。そうした様々な影響が発生していて、第3波の波を超えられるのかなという風に不安になっています。ぜひ、皆様も子供達に関心を持って頂き、色々な形でご支援を頂けたらと思います。本日はご清聴有難うございました。

9. 閉会の辞 大竹章裕会長

11/20 東京練馬中央ロータリークラブ 尾島 昇様、桜井 雅英様、三宅 泉様、
小池 道子様、田中 直子様
竹井 英久様（東京西RC）
猪俣 隆様（入会希望者） 五十嵐朝青様、岡崎 良様（高橋ゆき会員友人）

【にこにこボックス】 本日の合計 71,000円（25件） 累計 1,742,000円（568件）

宮下 真君：本人誕生日。11/17に人生折り返しの50才になりました！益々ががんばります。本日は尾島会長はじめ東京練馬中央RCの皆様わざわざお越し頂き誠に有難うございます。	坂田 生子君：練馬中央RCの皆様、ようこそお越し下さいました。楽しい時間を共有させて下さい。田中様、今日の卓話楽しみです。
江副 碧君：本人誕生日。	三村智恵子君：田中宝紀様、卓話楽しみです。練馬中央RC会長・尾島様、桜井幹事様、皆様ようこそお井で下さいました。
金丸 精孝君：結婚記念日。	谷井 玲君：田中先生、楽しみです。よろしくお願ひします。
大竹 章裕君：本日は練馬中央RCよりようこそお越し下さいました。寒さが進んで参りました。皆様ご自愛下さい。	石川ヒロ子君：田中宝紀様、本日は宜しくお願ひ致します。

井浪 喬之君：田中宝紀様、卓話宜しくお願い致します。

久保田優子君：田中様、楽しみにしています。

茨田 浩之君：東京練馬中央RCの皆様、ようこそ紀尾井町へ。

西脇 修君：練馬中央RCの皆様、ようこそ。

手島 京子君：今週 23 日に社交ダンスのパーティが開催され、熊川貴昭さんにご出席頂き、有難うございました。私は「ワルツ」を踊りました。次回、皆様のご参加をお願い致します。

深尾 一郎君：いいふろ (1, 1, 2, 6) の日なので、薬湯に入って来ました。

吉野 次郎君：本日、初の司会です。何卒よろしくお願い申し上げます。

【米山財団寄付】

宗田 裕司君：練馬中央RCの皆様、ご来訪ありがとうございます！ごゆっくりお過ごし下さい。

中村ひろみ君：田中様、卓話楽しみにしておりました。

日高 正人君：親睦委員の皆様、先日の炉辺会有難うございました。

中村 俊輔君：今日も楽しい一日です。気持ちいいです。

浅見 亨君：寸志。

平島 有希君：寸志。

林 ひろみ君：寸志。

林 裕人君：寸志。

守重 知量君：寸志。

大島 幹君：寸志。

齊藤 学君：寸志。

渡邊 藍子君：寸志。

松島 寛君：寸志。

岡垣 栄治君：寸志。